

日本英学史学会 中国・四国支部

ニューズレター

No.89

Historical Society of English Studies in Japan, Chugoku-Shikoku Chapter

<エッセイ>

細江逸記『英文法汎論』から100年

竹中龍範

今からちょうど100年前、大正6(1917)年は、細江逸記がH. Sweetの著書やC. T. Onionsの*An Advanced English Syntax*を下敷きに『最新 英文法汎論』を著し、刊行した年である。

この大正時代には、その元年に市河三喜の『英文法研究』が発行され、12年には八木又三の『新英文法』が創刊発行として出版されて、日本の英文法研究が科学的時代を迎えたと言われる。この三者による文法書は大正期の三大英文法と称されるが、そのアプローチは三者三様とも言うべきもので、どれか1冊を読めば大正期の英文法研究の全体像が掴めるというものではない。その中であって、この細江の『英文法汎論』は日本の英語教育界に広く用いられた英語の5文型〔第一公式～第五公式の文〕を最初に紹介したのものとしてその名を残している。

この5文型の概念の普及によるものか、将た又、その本家本元に還ろうとすることによるものか、原著*An Advanced English Syntax*もよく読まれたようである。近年はこれを見かけることも少なくなったが、筆者が院生のころには古書店の棚によく並んでいた。しかも、その多くは、数ページに限ってびっしりと書き込みがなされているものの、他のページは手もつけられずに残され、明らかに英文学科などの英語学演習といった授業に用いられて、担当が当たったところは一所懸命に辞書を引いて勉強するものの、他の学生が担当したところはお客さん気分で聞いていたという状況を表していた。これに加え、その書き込みの箇所が異なっているので、数冊を古書で求め、それをばらして製本をし直せば、新本同様のものができ上がるのではないかと思われるほどであった。皮肉的に見れば、この本は、実によく読まれ、実によく読まれなかったものであるとすることができる。

ただ、この原著は英本国でもそれなりに読まれたようで、1904年の初版から、確認できたところでは戦前に第6版(1932)までを重ね、戦後も同版が1965、1969、1970年と刷を重ねている。さらに1971年にはこれが*Modern English Syntax*と改題され、'New Edition of *An Advanced English Syntax*, prepared from the author's [C. T. Onion's] material by B. D. H. Miller'として新版が刊行されている。

この英本国における重版とわが国における『英文法汎論』の改訂重版とは、それぞれが、英文法・英語学研究、言語教育の分野において同様の役割を果たしたということにはならないであろうが、日本英学史の研究対象としてこの細江逸記『最新 英文法汎論』はどのように分析されるのであろうか。

細江にはこの上級版として『精説 英文法汎論 第一巻』(昭和17、泰文堂)と題する著書がある。恐らくは数巻にわたる自らの英文法研究の大系を構想していたものと考えられるその第1巻であろうが、筆者家蔵本には竹村覚宛てのものと思われる献辞が認められている。曰く、「竹村君/吾々は自己の立場を樹立せねばならない/細江逸記」と。細江はこの一言にいかなる意を込めたのであろうか。

(香川大学/日本英学史学会中国・四国支部副支部長)

日本英学史学会 中国・四国支部
平成29年度 総会・第1回(通算76回) 研究例会のご案内

拝啓 新緑の候、会員の皆様にはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より当支部の発展のために温かいご支援とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

さて、平成29年度支部総会、及び第1回(通算第76回)支部研究例会を下記の要領で開催いたします。今回の研究例会では、研究発表が2件予定されています。お誘いあわせの上ご参集くださいますよう、ご案内申し上げます。末筆ながら、会員の皆様のご健勝を心よりお祈り申し上げます。 敬具

日本英学史学会 中国・四国支部

日時： 2017年5月27日(土) 12:30 受付開始
会場： サテライトキャンパスひろしま(広島県民文化センター) 505 中講義室(5階) 〒730-0051 広島県広島市中区大手町1-5-3 TEL 082-258-3131
参加費： 会員、非会員とも無料

支部総会(13:00~13:50)

議長選出、前年度活動報告、会計報告、会計監査報告、会則改正、役員選出、新年度活動計画、他

開会行事(14:00~14:05) 支部長挨拶

研究発表①(14:05~15:15)

「ヘルン先生とラジオ補習講座」

田中 正道(広島大学名誉教授)

かつて広島には Lafcadio Hearn に大学時代に直接指導を受けたり、作品等で感化された人物が結構いた。本発表では、昭和6年から昭和13年まで日本放送協会関西支部(のち大阪中央放送局と改称)から放送された標記の番組のうち、L. Hearn の影響がよく窺える昭和6年11月から翌年3月までのラジオテキストにスポットを当て、担当講師、講座内容を一瞥することとする。

研究発表②(15:30~16:40)

「日本における英語基本語の史的検討(1): 令文社『学習英語辞典』を手がかりに」
馬本 勉(県立広島大学)

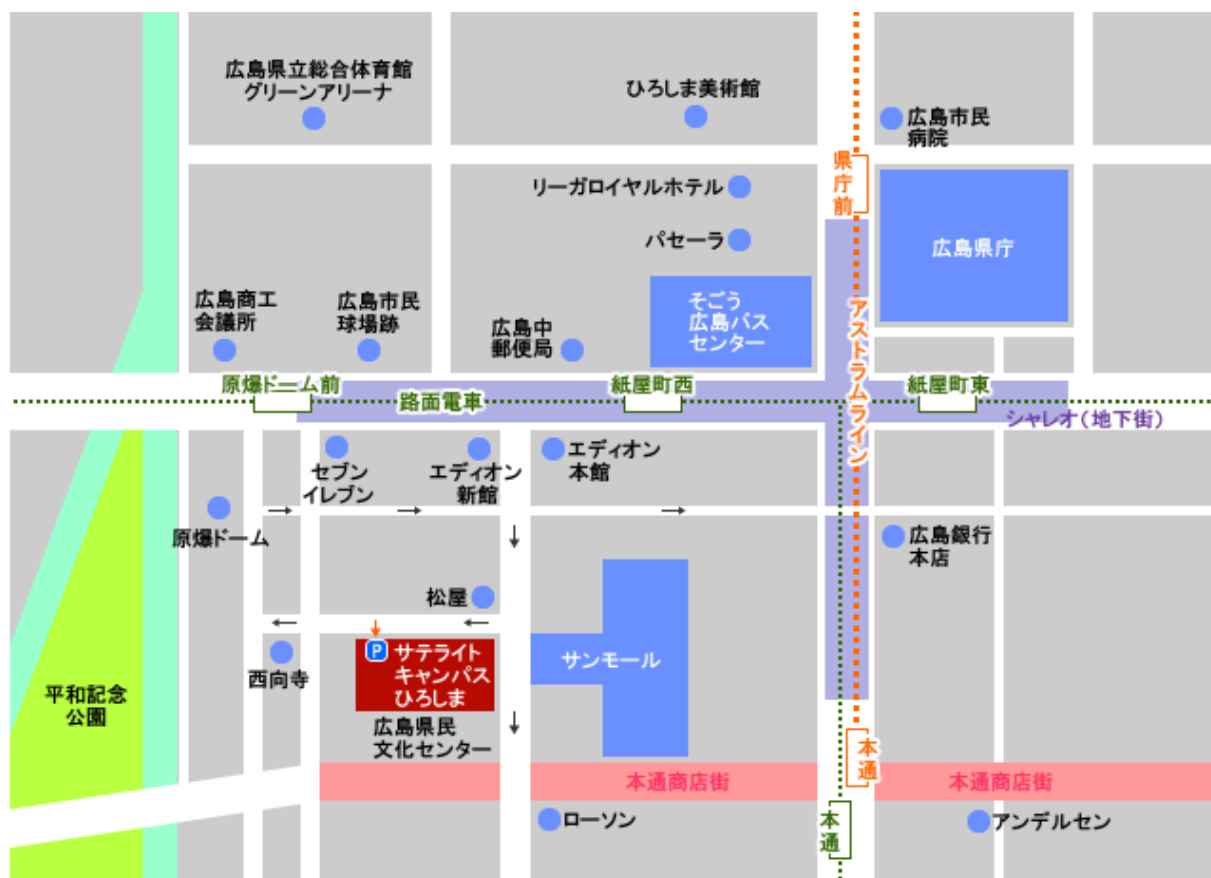
英単語の重要度は何によって判断するか。日本の英語教育にとって、これは古くて新しい問題である。これまで多くの辞書や単語集が語の重要度を様々な方法で表記しようと努めてきた。その一つが令文社『学習英語辞典』であるが、出版から50数年を経た今、現物に出会う機会の極めて乏しい「幻の辞書」となっている。本発表では、その「幻の辞書」が試みた重要度表記を手がかりとして、日本の「英語基本語」をめぐる議論を振り返りたい。
--

閉会行事(16:45~17:00) 副支部長挨拶、写真撮影

懇親会(17:30~19:30)

広島酒呑童子(広島市中区大手町1-4-25 TEL 082-247-9300) 会費 4,000円

研究例会会場への交通案内 (県立広島大学ホームページ「サテライトキャンパスひろしま」より)



サテライトキャンパスひろしま
 (広島県民文化センター 5・6階)
 〒730-0051 広島市中区大手町1丁目5-3
 TEL:082-258-3131 FAX:082-258-3010

●エディオン本館から南へ約100m

●広島県民文化センター 地下駐車場

- ・収容台数 31台
- ・営業時間 7:00~22:00
- ・駐車料金 【7:00~22:00の間】
 30分 170円
 【22:00~翌7:00】
 夜間一泊 1,050円
 (夜間の入出庫はできません)

※ 高さ2.20m×幅2.50m×長さ5.5mまでの車両の駐車が可能です。

※ 広島県民文化センター周辺は一方通行が多くありますので、ご注意ください。

●交通のご案内

【JR広島駅から】

路面電車で約20分、バスで15分、車で15分

○路面電車(広島電鉄)

- ◆広島港行
 →「本通り」下車、徒歩約5分
- ◆西広島行、江波行、宮島行
 →「紙屋町西」下車、徒歩約3分

【広島バスセンターから】

徒歩 約3分

【広島空港から】

リムジンバス(広島バスセンター行) 約60分

【広島港から】

路面電車で約30分、バスで30分、車で20分

○路面電車(広島電鉄)

- ◆広島駅行き(1号線)
 →「本通り」駅下車、徒歩約5分
- ◆西広島行き(3号線)
 →「本通り」駅下車、徒歩約5分

○バス

- ◆広島バス21号線 広島駅、向洋大原、洋光台団地行
 →「本通り」下車、徒歩5分

【アストラムライン本通り駅から】

徒歩 約5分

中国・四国支部ニュース

>> 事務局よりお知らせとお願い

①名簿の改訂について

「会員登録確認票」をお届けします。変更のある方は5月24日(水)までにお知らせください。併せて、5月27日(土)に開催される支部総会・研究例会・懇親会の出欠について、ご回答をお願いします。

②会費の納入について

支部総会・研究例会へご出席の方は、平成29年度年会費(一般3,000円、学生2,000円)を受付でお支払いください。その際に『英学史論叢』第20号、今年度の名簿をお渡りする予定です。

ご欠席の方へは、例会終了後、『英学史論叢』、名簿とともに、年会費用の振替払込用紙をお送りします。

2年間未納の場合は「自然退会」となりますので、ご理解のほどよろしくお願いたします。

英学史学会全国ニュース

>> 『日本英学史学会報』No.142

2017年5月1日発行。次の記事などが掲載されています。

《巻頭言》会長就任挨拶(楠家重敏)

《特別寄稿》

会長3年間を振り返って(塩崎 智)

「齋藤修一郎評伝」の試み(川瀬健一)

《英学史散策》

九州支部活動の40年を回顧する(西 忠温)

私たちの「研究」は横浜開港資料館訪問から始まった(増井由紀美)

第53回全国大会英学史見学ツアー(菅 紀子)

《追悼》出来先生の思い出(音在謙介)

《書評》楠家重敏著『幕末の言語革命』(大前義幸)

ほか

※本部事務局発行の『日本英学史学会報』を閲覧希望の方は、支部事務局までご連絡ください。

>> 第54回全国大会

平成29年10月21日(土)・22日(日)

杏林大学井の頭キャンパス(東京都三鷹市下連雀)にて開催予定

※日本英学史学会(本部)の会員登録には、中国・四国支部とは別に手続きが必要です(入会金2,000円、年会費7,000円)。

英学史情報ひろば

◇田中正道(2016)。「JLTAとテスト研究」『日本語テスト学会誌』20周年記念特別号, pp.28-30.

◇第198~200回「広島ラフカディオ・ハーンの会」ニュース(2017年2月~2017年4月)

◇日本英学史学会関西支部『関西英学史研究』第10号(2017年2月)

◇日本英語教育史学会第33回全国大会

平成29年5月20日(土)・21日(日)

日本大学工学部(福島県郡山市)

《記念講演》「英語教育論争から考える」

鳥飼 玖美子(立教大学名誉教授)

《支部会員による研究発表》

「小学校英語教育の是非をめぐる戦前期の論争」

江利川春雄(和歌山大学)

「ネスフィールド独習書に関する研究」

馬本 勉(県立広島大学)

「英語発音指導における『主體的・対話的で深い学び』: 史的観点からの一考察」

田邊祐司(専修大学)

日本英語教育史学会ウェブサイト <http://hiset.jp/>

広島英学史の周辺(55) 大学の初年次科目で「ノートテーキング」の一コマを担当するため、学生時代のノートを取り出してみました。英詩講義のメモや、修論に使えるような英語表現を抜き出した大学ノート。今より遥かに若い文字を見て、なかなか頑張ってるじゃないか、と30年前の自分に声をかけたくなりました。▼4年の春まで、大学生活イコール体育会の部活でした。引退してからの授業、卒論ゼミ、修士入試準備、教育実習などは、それまで疎かにしていた分、楽しくたまらない学問の日々でした。▼大学院で手がけた「基本語」のテーマは、他の研究者とは異なるアプローチを取りながら、今なお探究を続けています。あともう少し追いかけて、新たな形で世に問えないだろうか。そんな思いで、今回は発表したいと思っています。▼では皆様、来る総会、例会でお会いしましょう。(馬)

日本英学史学会中国・四国支部ニューズレター No.89

2017年5月5日発行

発行 日本英学史学会中国・四国支部(代表 田村 道美)

事務局 〒727-0023 広島県庄原市七塚町 562

県立広島大学 馬本研究室内

電話&FAX: 0824-74-1725(研究室直通)

e-mail: eigaku@tom.edisc.jp

ホームページ <http://tom.edisc.jp/eigaku/>

郵便振替口座 01360-9-43877 日本英学史学会中国・四国支部

Newsletter No.89 May 5, 2017